

Chapter 2

専門学校におけるDX教育の先進事例紹介

第1章で紹介した「専修学校と業界団体等との連携によるDX人材養成プログラム」のみならず、さまざまな専門学校がDX関連の科目を開設するなど、実践的かつ多分野にわたりDX人材を輩出する教育に力を入れはじめています。ここでは東京都の専門学校のなかで特にDX人材の育成を目的とする学科を設置している学校（設置予定含む）から話を聞き、学びの特色や育成する人材像などを紹介します。

Case・1

日本電子専門学校

DXスペシャリスト科

デジタル技術と ビジネス知識の両輪で 企業のDXを推進する人材を



日本電子専門学校は1951年に創立された技術系職業教育を中心とする総合専門学校。IT分野をはじめ、これまで約11万人の卒業生を社会に送り出してきました。「電子技術を核とした創造性豊かな技術者の育成を通して世界に貢献する」を建学の精神に、CG・映像からゲーム、アニメ、デザイン、AI、Web・モバイル、情報処理、ネットワーク・セキュリティ、電気・電子分野など多岐にわたる学科を設置しています。若手技能者を対象にさまざまな技術を競う「技能五輪」に何度も入賞者や世界大会の出場者を輩出していることでも知られています。

そんな同校では2023年4月から「DXスペシャリスト科（※認可申請中）」を新設します。昼間部2年制で高校卒以上を対象とし、定員は1学年40名。現在は学科別体験授業などが行われています。

前章で見てきた「先端IT人材」の育成に関しては既存学科で十分対応できる同校が、あえてDX専門学科を設置する意図は何でしょうか。「主にユーザー寄りの企業でDXを推進する人材を育成するためです」と語るのは、来年からDXスペシャリスト科の科長に就任する谷口英司先生です。谷口先生は現在、情報ビジネスライセンス科の科長で、「元々はこの科が今年開設10

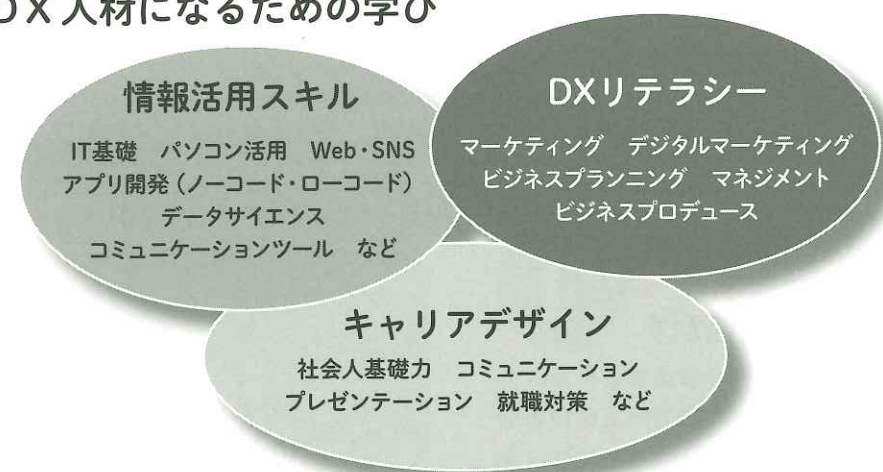
年目を迎えるのを機に、さらに発展的な内容にすべく検討したことがきっかけです。その過程でビジネスにおけるDXの重要性が増したため、DX主体の学びに大きく舵を切り、新学科として新たにスタートすることになりました」と振り返ります。

したがって学びの柱は「デジタル技術」と「ビジネス知識」の両輪。カリキュラムはデジタル技術の基礎を習得する「情報活用スキル」、マーケティングやマネジメントなどビジネス手法を理解する「DXリテラシー」、さらに自己分析から始まり、幅広い業種・職種に通用する社会人基礎力を養う「キャリアデザイン」の3系統の学習科目から構成されています【図参照】。集大成となる2年次の総合演習では、新しいビジネスプランやビジネスモデルを企画立案する「ビジネスプロデュース」科目でDX案件に挑戦させ、各種コンテストにも応募して力を試す予定です。またその前提として、実際の企業や社会におけるDXの取り組みを学ぶのも特色です。例えば「NetflixやUberEatsといった例はもと



DXスペシャリスト科長に就任する谷口英司先生

【図】DX人材になるための学び



より、プロスポーツチームのホームスタジアムでの飲食やグッズ販売における画期的なキャッシュレス決済の仕組みや、コンビニの無人店舗の取り組みなど事例紹介の授業を想定しています。事例に携わったベンダー企業が本校の協力企業であることも産学連携に注力する専門学校の強みです」と谷口先生。目指す職種は主にユーザー企業でDXを推進するビジネスデザイナー。資格取得ではITパスポートやMOS、ITF+などを目標としています。【※1】

週3日のオンライン授業で 将来のテレワークに対応 コミュニケーションスキルも習得



新学科でとりわけ興味を引くのが、オンライン授業中心の学習環境です。パソコンを全員に貸与し、週5日のうち3日間はZoomやMicrosoft Teamsを使って授業を行います。「これは通学の負担を軽減する以上に、就職後の働き方を見据えたテレワークの準備、という狙いがあります。在宅で協働する人とのようにコミュニケーションを取るかもTeamsのチャット機能により学んでいきます」（谷口先生）。ビジネス系学科でオンライン授業中心というのは珍しいですが、在宅3日・登校2日の学び方は、大手企業のテレワーク実施率で最も多い「週2～3日」と同じ。中小企業を含めて今後さらにテレワークが標準的な働き方として浸透すると

見られるなか、即戦力養成の一助となる取り組みと言えるでしょう。卒業生を出す3年後の職業実践専門課程認定を意識し、今後は教育課程編成委員会委員などの連携企業として、新しくユーザー企業を開拓することも視野に入れています。

最後に、高校生への体験授業をどのように行っているか聞くと、「前提として、参加する生徒はDXについてほとんど知りません。『なんとなく格好いい言葉だから』というほどの興味ですが、きっかけはそれで構わないと思っています」と谷口先生。DXとは何か、なぜ注目されるのか、授業では背景を丁寧に説明するとともに、世界デジタル競争力ランキング【※2】を引いてDX推進に後れをとる日本の現状を示し、「だからこそチャンスはすごくある、どんな企業もDX人材を求めている、と語ると高校生たちの目が輝いてきます。DXを学ぶタイミングとしてはまさに今が好機です。高校の先生方にもぜひ興味を持っていただければ幸いです」（谷口先生）。

【※1】ITパスポート：ITに関する基礎的知識を証明する経済産業省認定の国家試験／MOS：WordやExcelなどのスキルの証明となる国際資格／ITF+：CompTIA IT Fundamentals。コンピュータを安全に設定・使用し、正確に作動させる知識とスキルを証明する認定資格

【※2】世界デジタル競争力ランキング：スイスの国際経営開発研究所が毎年発表するデジタル技術の利活用能力国際順位。2022年、日本は29位に後退した。